

2020年10月14日

DRONE FUND

DRONE FUND、3号ファンドを設立 目標調達額を100億円とし、ドローン・エアモビリティの社会実装を牽引 ～アンカー投資家としてSMBC日興証券、NTTドコモが参画～

「ドローン・エアモビリティ前提社会」の実現を目指すベンチャーキャピタルの DRONE FUND(本社:東京都渋谷区、代表:千葉 功太郎、大前 創希、以下:ドローンファンド)は、2020年5月、目標調達額を100億円とする「DRONE FUND 3号投資事業有限責任組合」(以下、3号ファンド)を設立し、2020年9月にファーストクローズを迎えたことをご知らせいたします。

この度、SMBC日興証券株式会社、株式会社NTTドコモ、ソフトバンク株式会社、小橋工業株式会社、国際航業株式会社、株式会社リバナスなどに投資家としてご参画いただきました。ドローンファンドは2021年3月(予定)のファイナルクローズに向けて、今後資金調達を続けていくと共に、本発表をもちまして3号ファンドからの新規投資活動を順次開始いたします。



〈図〉 本発表時点での「3号ファンド」の投資家 (一部の投資家は非公開)

【3号ファンド設立の背景】

今日、労働人口の減少やインフラの老朽化、苛烈さを増す気候変動や自然災害、そして新型コロナウイルスの流行など、国内外の様々な社会課題に対し、AIやロボティクス、そして新しいモビリティを活用したイノベーションによる解決とNew Normalな世界の構築が強く期待されています。

ドローンファンドは、「ドローン・エアモビリティ前提社会」の実現を目指し、関連スタートアップへの投資を積極的に実行して参りました。15.9億円で組成した1号ファンド、および52億円で組成した2号ファンドを通じて、国内外40社以上のポートフォリオを形成しております。

1号ファンドの代表的な投資先としては、2018年12月、ドローン銘柄として初の東証マザーズ上場を果たした株式会社自律制御システム研究所が挙げられます。2号ファンドでは、株式会社SkyDriveなどのエアモビリティの領域、マレーシアのAerodyne Groupに代表される海外の有力なスタートアップ、その他必要不可欠なコアテクノロジーを有するスタートアップなどに投資領域を拡大するなど、「空の産業革命／移動革命」を全方位的に牽引してまいりました。

昨年度は「2022年度におけるドローンのレベル4運用の解禁」、そして「2023年度におけるエアモビリティの事業化開始」というチャレンジングな政策目標が閣議決定され、それらの動きに呼応するように地方自治体の活動も活発化しています。これらの機運を追い風に、日本のドローン・エアモビリティ関連のスタートアップにはますますの飛躍が期待されています。



〈図〉 投資先企業(一部)のプロダクトイメージ

【3号ファンドに関して】

ドローンファンドは、「ドローン・エアモビリティ社会実装ファンド ～社会受容性の強化と5Gの徹底活用～」というコンセプトのもと、3号ファンドの活動を展開してまいります。具体的には、次世代通信規格の5Gをはじめとする通信インフラの徹底活用などを通じて、フィールド業務の自動化やリモート化などの産業活動のDX(デジタルトランスフォーメーション)を可能とし、ドローン・エアモビリティの社会実装に寄与するテクノロジーへの投資を実行いたします。

また既存のファンドも含めると、ドローンファンドには大手通信事業者3社の皆さまに投資家として参画いただくなど、スタートアップ支援に限らず、ドローン・エアモビリティ産業の発展にあたって理想的な座組みが形成できつつあります。ドローンファンドは、今後3号ファンドにご参画いただける投資家の皆さまとも精力的な連携を行いながら、ドローン・エアモビリティ前提社会の実現にむけた投資を加速してまいります。



〈図〉 3号ファンドのビジョン

【本発表時点での投資家の皆さま (一部)】

- SMBC 日興証券株式会社 (本社:東京都千代田区、代表取締役社長:近藤 雄一郎)
- 株式会社 NTTドコモ (本社:東京都千代田区、代表取締役社長:吉澤 和弘)
- ソフトバンク株式会社 (本社:東京都港区、代表取締役 社長執行役員 兼 CEO:宮内 謙)
- 小橋工業株式会社 (本社:岡山県岡山市、代表取締役社長:小橋 正次郎)
- 国際航業株式会社 (本社:東京都千代田区、代表取締役社長:土方 聡)
- 株式会社リバナス (本社:東京都新宿区、代表取締役グループ CEO:丸 幸弘)

【3号ファンド代表のプロフィール】

千葉 功太郎（創業者／代表パートナー）

- 1997年、慶應義塾大学環境情報学部を卒業し、リクルートに入社。サイバード、KLabを経て、2009～16年、株式会社コロプラに参画（副社長）。エンジェル投資家（60以上のスタートアップ、40以上のVCに個人投資）であり、2017年にDRONE FUND、2019年には千葉道場ファンドを創業。慶應義塾大学SFC 招聘教授。ホンダジェットの国内顧客第1号で、航空パイロット（自家用操縦士）でもある。



大前 創希（共同創業者／代表パートナー）

- 2002年、Web/ITコンサルティングの(株)クリエイティブホープを創業（現会長）。2014年よりドローングラフィアとして活動（2016年3月ドローンムービーコンテスト2016 準グランプリを受賞。2018年3月～8月に放送された読売テレビ・ドローン絶景紀行の総合監修を担当）し、ビジネス・ブレークスルー大学/大学院の教授職（専門はデジタルマーケティング）も兼任。



【3号ファンド概要】

ドローンファンドは、「ドローン・エアモビリティ前提社会」を目指し、ドローン・エアモビリティ関連のスタートアップに特化したベンチャーキャピタルです。1号および2号ファンドを通じて、国内外の合計40社以上のポートフォリオを形成しています。3号ファンドでは、ドローン・エアモビリティおよびその社会実装に資するテクノロジーへの投資活動を幅広く展開してまいります。

- 正式名称：DRONE FUND 3号投資事業有限責任組合
- 運営会社：DRONE FUND 株式会社
- 代表パートナー：千葉 功太郎、大前 創希
- 所在地：東京都渋谷区恵比寿 3-3-6 滝澤ビル 3F
- 設立：2020年5月
- 事業内容：ドローン・エアモビリティ関連への投資及び協業支援
- ウェブサイト：<http://dronefund.vc>

【本件に関する報道関係者様からのお問い合わせ先】

- DRONE FUND 広報担当：pr@dronefund.vc